

公共交通体系の確立について

質問（小西久美子議員）まちづくりの基盤である充実した市営バスのあり方について伺います。

答弁（市長）大田原市市営バスの利用者は七十八万四千七百五十九人であり、他市町に比べ突出しています。特に通勤通学の足として、多くの方々にご利用をいただいていることは、市営バスが目指す地域住民の交通の利便性向上に大きく貢献していると考えています。

は、平成二十二年度において約八千十四万円でありました。公共交通全体で見ますと民間事業者の路線バス運行に対する補助が約四千五百二万円、国際医療福祉大学との連携推進事業補助が約六百十三万円、これらを合計いたしますと約一億三千三十万円でありました。

今後につきましては、大田原市地域公共交通総合連携計画に基づき地域特性を踏まえた公共交通体系の構築を行っていきま

す。需要が高く、幹線的な路線は交通軸として定時性、速達性の強化を図り、需要の低い路線は運行車両等の見直しを行い、利用しやすく効率的な交通体系の構築を目指しています。

さらに昨年度実施した市民アンケート、市営バスの乗降調査等のデータを精査し、適正な運行形態や車両について慎重に協議を重ねるとともに、各地区区長会に意見交換会を開催して、地域のご意見をいただいております。

これらを基に通院、通学、買い物等への利便性の向上を図り、運行経費を抑えながら持続可能なバス路線の改変を進めてまいります。



黒羽城址公園の紫陽花

アジサイの管理について

質問（井上泰弘議員）黒羽城址公園のアジサイの手入れについて、今後の対策を伺います。

答弁（市長）黒羽城址公園のアジサイは、城址公園の基本的整備が行われました昭和五十一年に本丸と二の丸の間にあります空堀の斜面に植栽されたのが最初であり、その後昭和五十五年に開催されました栃の葉国体において、旧黒羽町が相撲の会場になったことを契機に多くのアジサイが植栽され、現在では六千株とも言われています。

しかしながら、アジサイの管理については、あくまでも公園管理の一環として実施されてきたので、剪定や施肥が十分でなかったことは認識をしています。

このような状況において、平成二十一年二月には地元の有志を育成する会が発足をしました。同会は、本丸周辺のアジサイ管理に取り組んでおり、同会の発足後、二年続けてとちぎ花セクターから講師を招いて、アジ

サイの強剪定の指導をうけ、施肥も適宜に実施してきたことから、今年あたりから適度な樹形とともに花つきもよくなりつつあります。

アジサイの育成には、半日陰が適していると言われておりますが、現在の黒羽城址公園は杉の木が乱立しているため、一日中、日が射さないところも多くありますので、今後の対策としてしましては、まず杉の木の間伐を行う予定でございます。

今後も継続的にくろばね紫陽花を育てる会と協議をしながら、適切な維持管理に努めてまいります。



市営バスを利用する国際医療福祉大学の学生